

チーム
Tme
39号

特集

AYA世代支援チーム



Topics & News
帝京大学医学部附属病院からのお知らせ

19

チーム医療

ヘアサロンこもれば 上山さん

18

業種別 INTERVIEW

緩和ケア内科 病院准教授 渡邊 温子先生
看護師 大塚 歩さん
ソーシャルワーカー 駒山 裕耕さん

12

緩和ケア内科 主任教授 有賀 悦子先生
看護師 生亀 清香さん

04

AYA世代とは？
「その課題と支援の重要性」
緩和ケア内科 主任教授 有賀 悦子先生
「AYA世代を取り巻く数字と現状」
帝京大学医学部附属病院の取り組み紹介
「AYA世代支援チームの活動」
帝京大学医療技術学部 看護学科 教授 南川 雅子先生
帝京大学医療技術学部 看護学科 教授 三木 祐子先生
帝京大学医療技術学部 看護学科 教授 生亀 清香さん

特集 AYA世代支援チーム

目次

◎発行年月
2026年5月
◎発行
帝京大学医学部附属病院
総務課広報企画係
◎編集・制作
ビーデザイン

T-me

T-me「チーム」は、
帝京大学医学部附属病院と
地域の皆さまをつなぐ院内誌です。

T:Teikyo = 帝京大学医学部附属病院の頭文字
me:Medical = 地域の皆さまのための医療

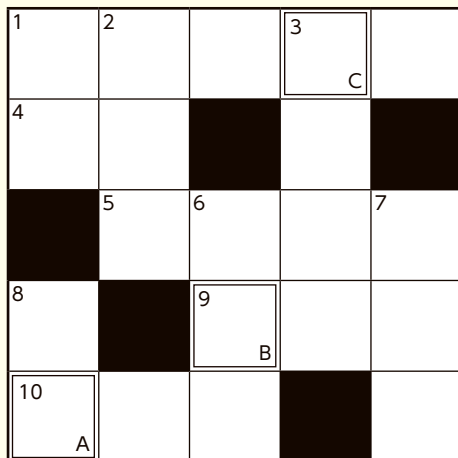
また、「チーム」には
医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、
その他病院全てのスタッフが連携して行う
チーム医療の意味も込められています。

本誌の掲載内容は、2026年3月現在の情報
に基づいております。

printed in japan
本紙掲載の写真・記事の無断転用を禁じます。
©2026 帝京大学医学部附属病院

クロスワードパズル

二重ワクの中に入る文字をアルファベット順につなげると、
子どもを優しく包み込むようなイメージの動物になります。

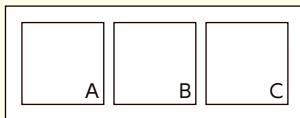


(ヨコのカギ)

- 1 エスプレッソにスチームミルクでまろやかに
- 4 掛けられたり解いたりします
- 5 福岡県南部の市。紺(かすり)が有名です
- 9 足、歩くことの幼児語
- 10 懐かしの「名犬ラッシー」はこの犬種です

(タテのカギ)

- 1 漢字を元にしてつくられた表音文字
- 2 ここは、帝京大学医学部〇〇〇病院です
- 3 醤油、塩、味噌…お好みは？
- 6 疑似餌。キラキラしてたりカラフルだったり
- 7 自分の利益だけをはかろうとする欲望のこと
- 8 「雑魚」、なんて読む？



(答えは P.19)

AYA世代支援チーム

年間およそ100万人が罹患しているがん。

そのうち、約2万人がAYA世代であるといわれています。

帝京大学医学部附属病院では、専門の支援チーム

「AYA世代支援チーム」を設置し、

ひとりひとりのお悩みに耳を傾けています。

今回は、AYA世代のがんの特徴や現状の課題、

そして当院の取り組みについてご紹介します。

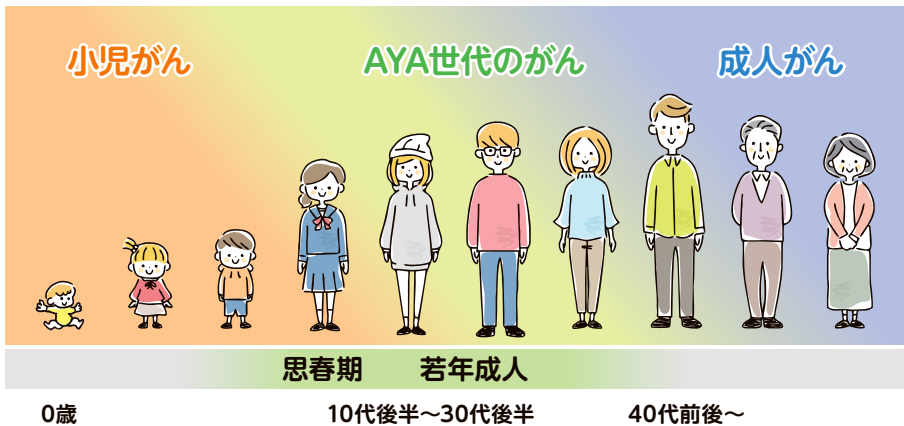


AYA世代とは？

【その課題と支援の重要性】

AYA世代とは、
Adolescent &
Young
Adult

(思春期・若年成人)の頭文字を取った言葉です。白血病や脳腫瘍といった小児に好発するがんと、乳がんや子宮頸がんなど成人に好発するがんの移行期にあたる世代を指します。さらに、「肉腫」や「希少がん」など、標準的な治療法が確立されていないがんが多い傾向にあります。



個別性が高いAYA世代の特徴

帝京大学医学部附属病院緩和ケアセンター長の有賀悦子先生に、AYA世代のがん患者さんの特徴や課題、支援の重要性について伺いました。

「日本では、年間およそ2万人のAYA世代がんに罹患していると報告されています。AYA世代は、A世代(15～19歳)とYA世代(20歳以降)に分けられますが、A世代では白血病が多く、次いで胚細胞腫瘍やリンパ腫、脳腫瘍がみられます。20代になると白血病は減少し、胚細胞腫瘍や甲状腺がんが増加します。さらに30代では、



有賀 悦子先生 緩和ケア内科 主任教授

1987年 筑波大学 医学専門学群卒業
1993年 アメリカ ミシガン大学腫瘍外科リサーチフェロー
(遺伝子治療・免疫療法)
同時に、アーバーホスピス(ミシガン州アナーバー)で在宅緩和医療研修
2003年 国立国際医療センター 緩和ケア科 医長
2008年 帝京大学医学部 内科学講座(緩和医療科)准教授
2013年 帝京大学医学部 緩和医療学講座(緩和ケア内科)教授・診療科長
2024年 同 主任教授

乳がんや子宮頸がんなどの成人に多いがんが増え、罹患するがんの種類がグラデーションのように移り変わる特徴があります。また、希少がんが多い点も、他の世代とは異なる特徴といえるでしょう」

—— AYA 世代は、学業や就職、結婚、妊娠、出産、育児など、ライフスタイルの変化が多い世代です。

「人生の大きな転換期を迎え、人間としての成長過程にある世代であるため、この時期にがんが診断されることは、心身に大きな影響を与えます。数か月単位で入院を繰り返すこともあり、孤独感や将来への不安を感じる方も少なくありません。がんは『これで卒業』と判断することが難しい病気です。抗がん剤治療が終了した後も、合併症や二次がんの発生リスクがあるため、長期的なフォローアップを行っていきます」

がんを正しく知ることが支援の第一に

—— AYA 世代が抱える課題についても教えてください。

「18歳までは児童手当や医療費助成があり、40歳

以上には介護保険の給付がありますが、AYA 世代には十分な公的社会保障がありません。また、希少がんに対する臨床試験がまだ十分に行われていないことも課題です。母数を増やしていくためにも、医療機関が世界規模で連携していくことが求められているでしょう」

—— 学校や家族、職場では、どのように支援するのが良いのでしょうか。

「数が少ないということは、同じような立場の間をみつけることが難しいということでもあります。ですから、家族や学校、職場など身近な人の支援はとても大切です。

2020年頃から小中学校でがん教育が始まっていますが、がんについて知ることは向き合う一歩になります。思春期世代は自分の気持ちを言葉にして伝えることが、まだ得意ではない時期でもあります。学校全般のことや恋人のことなど相談することに躊躇するかもしれません。親も先生も向き合う姿勢を心がけていただけるとよいと思います。

大人であっても悩みを抱えるのは当然のことです。

職場で多いのが、いわゆる『びっくり離職』で

す。がんを告知され、「もう働けない」と考えて、突然会社を辞めてしまう方がいらつしやいます。支援や補助を受けるためには、退職ではなく休職などの形で会社とつながっておくことを勧めています。

プライベートでも、恋人との関係など悩むこともあるかもしれません。身近な方の支えは大きな力になります。支援する立場の人は、相手の声に耳を傾けながら、相談する窓口があることを思い出していただけるとよいですね」

東京都がんポータルサイト 小児・AYA世代のがん患者さんやご家族へ



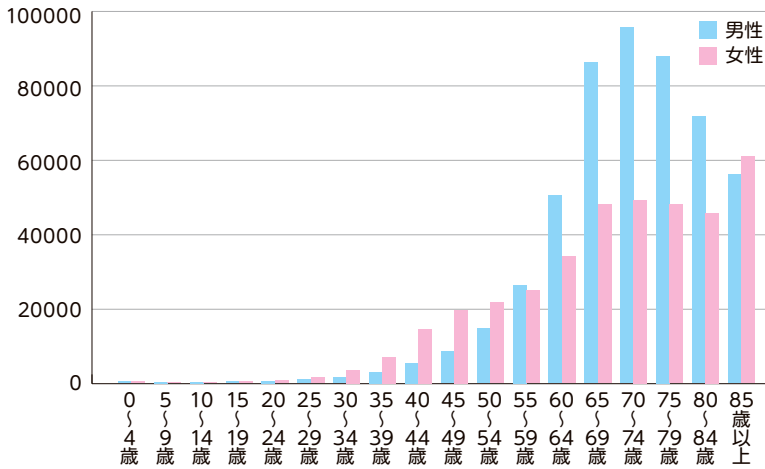
東京都がんポータルサイトより、
様々な案内の冊子を
ダウンロードして
閲覧できます。



【AYA世代を取り巻く数字と現状】

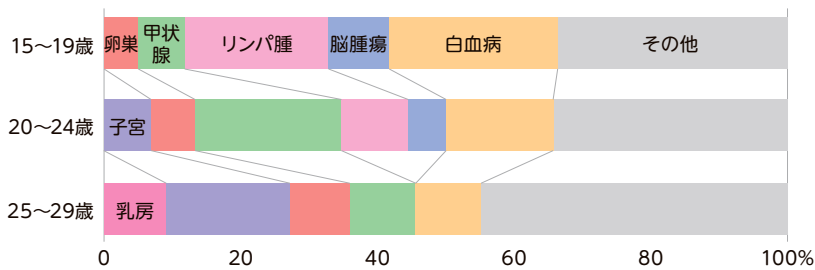
ここからは、AYA世代の罹患者数や発生割合など、具体的な数字をご紹介します。現状や抱えている悩みを知り、がんに関する正しい知識を身につけていきましょう。

性別・年齢別がん罹患者数 (2015年)



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCI))

年代別AYA世代がんの発症割合



地域がん登録全国推計によるがん罹患データ2011

「Web AYA(アヤ) 一緒に知ろう、共に語ろう、AYA世代のがんのこと。」より

AYA世代のがん罹患者数はとても少ない

2009年から2011年にかけて、1年間にがんと診断された人数は、小児(0-14歳)で約2,000例、15-19歳で約9,000例、20代で約4,200例、30代で約1万6,000例となっており、AYA世代の合計は約2万人です。すべての世代では年間約100万人が診断されているため、AYA世代の罹患者数は全体の中でも非常に少ない割合であることがわかります。

年代別の発症割合をみると、希少がん(人口10万人あたり6例未満の稀ながん)の発症率が高く、ひと口にAYA世代のがんといっても、多様な病態があることがわかります。希少がんの中には、世界的にみても症例数が少なく、治療法

がんを経験したAYA世代の年代別の悩み

	15～19歳		20～24歳		25～29歳		30～39歳	
1位	自分の将来	61.9%	自分の将来	68.3%	自分の将来	61.3%	自分の将来	53.0%
2位	後遺症・合併症	44.4%	仕事	41.5%	仕事	51.6%	仕事	44.8%
3位	体力の維持または運動	41.3%	不妊治療や生殖機能	41.5%	不妊治療や生殖機能	50.0%	家族の将来	36.6%
4位	学業	38.1%	経済的なこと	36.6%	診断・治療	30.6%	経済的なこと	36.1%
5位	不妊治療や生殖機能	34.9%	後遺症・合併症	31.7%	後遺症・合併症	30.6%	不妊治療や生殖機能	34.4%

出典：冊子「AYA」平成27年～29年度厚生労働科学研究
 [Web AYA(アヤ)と一緒に知ろう、共に語ろう、AYA世代のがんのこと。]より
 「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」班作成

入院中の困りごと

	15～19歳		20～24歳		25～29歳		30～39歳	
1位	食事	71.7%	同世代との出会い	56.8%	食事	38.2%	困ったことはない	28.0%
2位	web環境	45.0%	食事	43.2%	同世代との出会い	30.9%	同世代との出会い	24.8%
3位	早い消灯時間	36.7%	プライバシー空間	29.7%	web環境	25.5%	早い消灯時間	22.4%
4位	同世代との出会い	26.7%	早い消灯時間	29.7%	年長者ばかり	23.6%	食事	21.7%
5位	ゲームや携帯、PCなどの制限	21.7%	web環境	27.0%	早い消灯時間	20.0%	web環境	21.1%

出典：冊子「AYA」平成27年～29年度厚生労働科学研究
 [Web AYA(アヤ)と一緒に知ろう、共に語ろう、AYA世代のがんのこと。]より
 「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」班作成

が確立されていないものもあります。また、抗がん剤治療や放射線治療によって、生殖機能や妊孕性が低下すると、将来設計にも関わってくるのがAYA世代の特徴です。ご本人、ご家族やパートナーの方とも正しい情報の元、話し合っていけるとよいですね。

ひとりで悩まず相談を

何に困っているのか、何を悩み、不安に感じているのかは、人それぞれ異なります。がん相談支援センターのほかにも、悩みを相談できる窓口は地域にもしっかりと用意されています。

学校であれば担任の先生やスクールカウンセラー、職場であれば上司や産業医、カウンセラー、ご両親や友人、パートナーなど、相談しやすい相手に悩みを打ち明けることで、解決への糸口が見つかるかもしれません。情報が氾濫している昨今、AYA世代のがん患者さん本人だけでなく、支える立場の人たちも正しい情報を得られるよう担当医など医療スタッフとともに歩んでいきましょう。気になることがあれば、お気軽に当院の相談室や医師、看護師にご相談ください。

帝京大学医学部附属病院の取り組み紹介

【AYA世代支援チームの活動】

帝京大学医学部附属病院では、親のがんを知らされた子どもと保護者のための安全基地「コアラカフェ」の活動を行っています。毎月1回、対面またはオンラインで開催しており、遊びや対話などの体験を通じて、自分自身の気持ちに気づき、受けとめ、分かち合う場を提供しています。

がんの親をもつ子どもたちに
居心地の良い安全基地
「コアラカフェ」[®]



三木 祐子先生
帝京大学医療技術学部 看護学科 教授

2018年より帝京大学医療技術学部看護学科勤務
2023年より現職
2018年よりコアラカフェ[®]ファシリテーター



南川 雅子先生
帝京大学医療技術学部 看護学科 教授

2005年より帝京大学医療技術学部看護学科勤務
2008年より現職
2017年よりコアラカフェ[®]ファシリテーター

親のがんを「自分のせい」と
思ってしまう子どもたち

大切な人ががんであることは、子どもにとっても大きな危機です。今回は、事務局代表の南川雅子先生と三木祐子先生にお話を伺いました。

南川「コアラカフェ」は、毎月1回、対面またはオンラインで活動しています。参加は無料で、親御さんのがんを知らされた小学生と、その保護者を対象としています」

三木「名称の由来は、有袋動物であるコアラの『包み込む優しさ』と、私たちのポリシーの頭文字を重ねたものです。対面開催の場合は、約3時間、お子さんが自由遊びを楽しみます。その間、親御さんには保護者茶話会に参加していただき、交流の機会を提供しています」

【コアラカフェ[®]の三か条】

- コ：子どもたちの気持ちを大切にする
- ア：安心・安全な場所をつくる
- ラ：ライフ（子どもの生きざるを支える）

参加者たちの声を教えてください。

南川「お子さんたちは、いつも笑顔で楽しんでくれています。茶話会に参加した親御さんからは、同じ境遇の親子と知り合えることや、治療後に外出するきっかけになること、子どもが思いきり遊べてうれしいといった声をいただいています。お子さんたちが、親御さんの病気のことを隠さず、自由に遊べる場所として、安心していただけていると感じています」

三木「子どもたちの中には、自分が原因で親ががんになってしまったのではないかと考え、心を閉ざしてしまう子もいます。親に心配をかけるように、自分の気持ちを我慢している子も少なくありません。ひとりで不安や悲しみを抱えている子どもたちが安心して過ごせるよう、ひとりひとりに合った空間を提供しています」

「うちの子は大丈夫かな？」と
気にかけてみて

— AYA 世代の親御さんや、これからコアラカフェ®の利用を考えている方へメッセージをお願いします。

南川「ご自身やパートナーががんになったと

き、大人であっても、想像もしなかったような気持ちを抱くことがあると思います。そんなとき、ほんの少しで構いませんので、『うちの子は大丈夫かな？』と気にかけてみてください。親に迷惑をかけたくないと、平静を装っている子も多いため、子どもの本心に耳を傾けていただけるとうれしいです」

三木「第三者に話を聞いてもらうことも大切だと思います。闘病中は、ご自身のことで精一杯になることも多いと思いますので、少し落ち着いたタイミングで、ぜひ訪れてみてください。見学も自由にできますし、日頃抱えている思いを、ぜひ聞かせてください」

親の心身の状態はダイレクトに子どもに影響するため、子どもを支えるためには、保護者のグリーフにも目を向ける必要がある。子どもと保護者のサポートは同時進行が望ましい。

【保護者茶話会の意義】

- ・保護者同士の語り合いはお互いを支える
- ・子育ての課題のシェア
- ・自分の気持ちに丁寧に触れる
- ・うまくいかないことを許せる気持ちに変化させる機会になる
- ・違う考えに触れる
- ・行政手続き等への参考例のシェア
- ・新しいつながりができる

NPO法人子どもグリーフサポートステーション編著(2013)、子どものグリーフを支えるワークブック〜場づくりに向けて(P75)、梨の本舎

コアラカフェ®では、ホームページでがん教材の動画を無料で配信しています。QRコードよりご覧ください。
またコアラカフェ®に関するお問い合わせは、メールにて承っております。

メール: koalacafe@teikyo-u.ac.jp

ホームページ:

<http://www1.med.teikyo-u.ac.jp/koalacafe/>

コアラカフェ 帝京

🔍 検索

KOALA
CAFE





生亀 清香さん 看護師

2001年 帝京大学医学部附属病院 入職
緩和ケア認定看護師
現在は腫瘍内科・総合内科病棟および外来化学療法室
指導師長として勤務

がん患者と家族が 集う交流&情報発信スペース 「帝京宿場町 陽だまり」



▲
「帝京宿場町 陽だまり」
ホームページ

当院では、がんの手術や治療期間に関する悩みを気軽に相談できる交流・情報発信スペース「帝京宿場町 陽だまり」を設置しています。今回は、看護師の生亀清香師長にお話を伺いました。

「ここは、がん患者さんとそのご家族が気軽に交流し、情報収集ができる場所です。当院5階の外来化学療法室待合スペースに併設されており、相談会の開催をはじめ、がんに関連する書籍や資料の閲覧、ウィッグやスキンケアなど、がん治療に伴うさまざまなお困りごとを解決に導く情報を発信しています」

—— 相談会について詳しく教えてください。

「月に5〜6回ほど、ウィッグ相談や皮膚・爪・乳がん術後の悩みに関連した相談会を、無料で開催しています。病気と共生しながら自分らしく社会活動を行うためには、アピアランスケアが年代や性別を問わず必要です。自分らしくあるために何が 필요한のか、どのようにセルフケアをすればいいのかといった点について、がん患者さんやそのご家族にご参加いただいています」

—— 心がけていることはありますか。

「ここは、ピアサポートを目的として設けられた場所です。そのため、私たちスタッフも患者さんに踏み込みすぎることなく、誰もが自由に交流できる空間づくりを心がけています。新型コロナウイルス感染症の影響で、患者さん同士が交流する機会は減ってしまいましたが、今後は少しずつ増やしていきたいと考えています」

—— 読者の方へメッセージをお願いします。

「私たちは、病名や通院の理由などをお伺いしていません。お話ししたい方も、そっとしておいてほしい方も、それぞれが心地よく過ごせるよう配慮しています。闘病中の方やそのご家族、パートナーの方など、立場や病状を気にせず、お気軽にお越しいただければうれしいです。これからも、多くの方に活用していただける場となるよう努めていきたいと考えています」



「帝京宿場町 陽だまり」
スペース

当院では、緩和ケアセンター内に「AYA世代支援チーム」を設置しています。チームの特徴や支援体制について、緩和ケアセンター長の有賀悦子先生にお話を伺いました。



有賀 悦子先生 緩和ケア内科 主任教授

1987年	筑波大学 医学専門学群卒業
1993年	アメリカ ミシガン大学腫瘍外科リサーチフェロー (遺伝子治療・免疫療法) 同時に、アーバーホスピス（ミシガン州アーバー）で在宅緩和医療研修
2003年	国立国際医療センター 緩和ケア科 医長
2008年	帝京大学医学部 内科学講座（緩和医療科）准教授
2013年	帝京大学医学部 緩和医療学講座（緩和ケア内科）教授・診療科長
2024年	同 主任教授

相談と診療の バランスがとれた 「AYA世代支援チーム」



「AYA世代支援チームは、緩和ケアセンターに所属する医師、看護師、医療ソーシャルワーカーが兼任で業務を行っています」

——支援体制について教えてください。

「国の施策では、AYA世代支援チームは相談業務に位置付けています。でも、実際には相談だけではなく、身体面と精神面の診療（薬を処方するなど）が必要となる場合があります。当院では、緩和ケアのスタッフが業務を兼任しているため、診療との連携がスムーズで、バランスの取れた支援ができる点が特徴です。患者さんからも、一度相談することで次に取るべき行動が明確になり、安心して利用できるという声が寄せられています」

——どのようなチームにしていきたいですか。

「患者さんをはじめ、ご両親、パートナー、お子さん達と様々な取り巻く方々から寄せられる声を大切にしながら、これまで以上に院内のがん相談支援室など関連する部門との連携を強化していきたいと考えています」

——AYA世代のがん患者さんや、そのご家族

にメッセージをお願いします。

「困りごとは患者さん、周囲の方を含め、一人一人違います。すこしでも「困った」と感じたら、伝えやすい身近なスタッフに声をかけてください。そうすると必ずAYA世代支援チームにつながる仕組みが当院にはあります。」

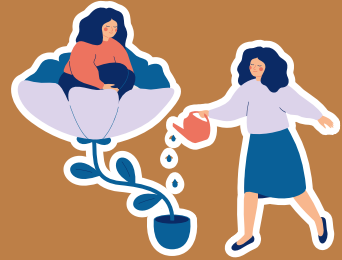
ライフステージの激動の中にあるAYA世代の患者さん達。数が多いがんであっても取り残されないことを目指して、困りごとに耳を傾け、力になりたいと思うチームがあることを知って頂けたらうれしいです」

AYA世代のがんに関する 相談はさまざま。 相談内容の例をご紹介します。

- ・医療費や生活費の不安がある...
- ・家族にどう話していいかわからない...
- ・学校にもどれるかな？
- ・友達にどんな風に説明すればいいんだろう？
- ・治療を受けながら仕事を続けたい...
- ・職場の配慮を病院から頼んでもらえないのかな？
- ・子どもを授かることができるか心配...
- ・育児で治療を続けられるかな...
- ・治療に専念したいけれど親の介護が心配...

業種別 INTERVIEW

それぞれの立場から見たAYA世代支援



AYA世代には、
成長を促す支援が必要

がん治療を最優先に

がん治療に関わる医師は、どのようにAYA世代と向き合っているのでしょうか。今回は、緩和ケア内科で働く渡邊温子先生にお話を伺いました。

「ひと口にAYA世代といっても、学校や友人との関係が最優先となるA世代と、仕事や家族が生活の中心となるYA世代とでは、社会的背景が大きく異なります。移行期にあたるAYA世

代は、治療中であっても成長の過程にあるということを忘れてはいけません。

思春期にあたるA世代では、診療科が分散しやすく、がんの発見が遅れてしまうこともあります。一方で、成長過程にある世代であるからこそ、病氣と向き合う中で心も大きく成長していきます。AYA世代においては、その成長を促す支援が必要だと感じています」

——心にかけていることを教えてください。

「大切なのは、患者さんのその先の人生を見据えることです。治療を乗り越えた先には、40〜50年という長い人生が待っています。がんを経験した人生を、どのように生きていくのかを考える必要があります。そのためには、患者さんのライフプランを再設計する視点が欠かせません。

これからの人生をどう生きるかを一人で考えるのは、決して簡単なことではありません。治療が終わればそれで終わりではなく、患者さんが自立して歩んでいけるよう、丁寧にサポートしていくことを心がけています」

——AYA世代の患者さんには、どのような支援



渡邊 温子先生 緩和ケア内科 病院准教授

1996年 東邦大学医学部卒業、東邦大学大橋病院第二小児科入局
1998年 茨城県立こども病院小児科
2004年 国立がんセンター中央病院小児科
2006年 東邦大学医療センター大橋病院小児科 助教
2014年 埼玉医科大学国際医療センター小児腫瘍科 講師
2023年 現職

を行っているのでしょうか。

「AYA世代で多い相談内容としては、晩期合併症やがん生殖に関する相談があります。特に、妊孕性温存療法については、関心を持つ方も多いテーマです。AYA世代は、がんの進行が比較的早いケースもあり、即入院、即検査となることも少なくありません。がんを告知されたから短い期間のうちに、今後の治療と並行して、自身の精子や卵子を残すかどうかを判断しなければなりません。場合もあります。

医師として最優先に考えるのはその方の命

です。まずは患者さん自身の命をどう守っていくか、それを考えながら将来の人生設計を共に考えていく。

その方の人生観や価値観に寄り添いながら支援を行っています」

**病気になったのは不運かもしれない
……でも、不幸になってほしくない**

——支援チームがあるのは、とても心強いですね。

「現在は、主に医師や看護師を通じて入院中の患者さんを中心に支援を行っています。患者さんやご家族が『相談したい』と自らが相談支援室を訪れるケースは、まだ多くありません。そのため、より多くの方にこの支援チームの存在を知っていただき、特別な相談がなくても気軽に立ち寄っていただける場所にしていききたいと考えています」

——読者の方々へメッセージをお願いします。

「病気になったことを、「運がなかった」と感じたり、「不公平だ」と感じたり、憤ったりする方もいるでしょう。でも、私は病気だからとい

て「不幸」になってほしくないんです。

若くしてこのように重大な病気を経験することは、非常につらい体験です。それでも、その困難を乗り越えてご自身の人生をまたつかんでほしい、そんな風に思っています。そのために、私たち支援チームの医療スタッフがいます。ご自身の幸せのために、ぜひ私たちを活用していただき、前を向いて歩んでいってもらえたらうれしいです」



AYA世代に伝えたい！ 自治体の医療費助成制度

18歳未満の児童は公費助成が受けられます。申請済みの方で、引き続き治療が必要だと認められた場合、20歳未満までが対象に。申請やルールについては、当院の「がん相談支援室」へお越しください。相談は無料。

ご予約は電話 (03-3964-3956) にて承ります。

相談時間:月～金曜日 / 9:00～16:00

場 所:当院1階⑭ がん相談支援室



業種別 INTERVIEW

それぞれの立場から見たAYA世代支援



やり場のない
怒りや悲しみを、
看護師の立場から支援

患者さんとの信頼関係を第一に

AYA世代の患者さんと近い距離で接する看護師は、日々どのような思いで支援し、患者さんと向き合っているのでしょうか。今回は、緩和ケアセンターで働く大塚歩師長にお話を伺いました。

「私は、がん性疼痛看護認定を持つ、緩和ケアチーム専従の看護師です。患者さんのケアに加え、一緒に働く看護師たちの管理業務も担って



大塚 歩さん 看護師

2004年 帝京大学医学部附属病院 入職
がん性疼痛看護認定看護師
緩和ケアセンター専従看護師・看護師長

います。

医療用麻薬を使用することで、眉間にしわを寄せていた患者さんが穏やかに眠れるようになるなど、痛みの緩和につながる場面を数多く経験してきました。もっと患者さんを楽にできる看護をしたいと思い、この資格を取得しました。

がんの痛みには、身体的・精神的な苦痛だけでなく、AYA世代の場合、仕事や学校など社会的な苦痛が伴うこともあります。この看護師なら何でも話せる、そう思っていただけで、友だちのような信頼関係を築くことを、日々心が

けています」

「AYA世代を支援する中で、大切なことを教えてください。」

「信頼関係を築くことが何よりも大切だと感じています。この世代は、恋愛や結婚など、異性との関係性を築きながら成長していく時期でもあります。そのため、生殖に関する話題では、どうしてもプライベートな部分に踏み込む必要があります。」

また、数日前まで元気だった方が、突然がんを告知され、気持ちのやり場が分からなくなることもあります。お金や仕事、家族のことなど、さまざまな悩みを抱えながら、がんとともに生き抜いていかなければなりません。ひとりひとり、寄り添ってほしいポイントは異なると思いますので、患者さんの気持ちを整えるお手伝いをしながら支援することを心がけています」

他職種との連携を深め、
チーム医療の幅を広げていきたい

「AYA世代からの相談で多いものを教えてください。」

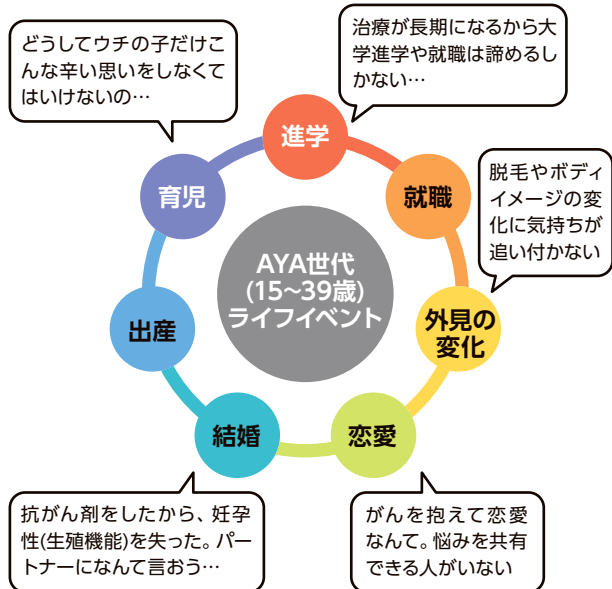
「当院は急性期病院なので、生殖医療に関わる意思決定については多いだけでなく、すぐに決断しなければなりません。次に生まれてくる命より、自分の命を優先しなければならぬ状況で、どう患者さんをケアするか？そしてどう寄り添っていくか？は特に重要です。また出産後に遺伝性のがんが見つかるAYA世代の患者さんもいらっしゃいます。自分の病気に以上の子どもの未来を想像して自責の念に駆られてしまう人も……。センチティブな問題が多い世代とも言えるでしょう」

——印象に残っている患者さんとのエピソードはありますか？

「AYA世代の終末期のがん患者さんで、ご家族の協力のもと治療に励んでいました。担当の理学療法士が、辛い気持ちを我慢してリハビリしている様子を見かねてAYA世代支援チームの心理支援を受けるのはいかがでしょうか打診してくれました。患者さんの「自分も辛いけど家族のことも支えて欲しい」という家族を思いやる気持ちに愛情の強さを感じました。ご家族との関係性を労わり、患者さんもお家族も「泣いてしまっても良いんだ」という安心感が保証できる

AYA世代(15~39歳)がん患者さんの支援チームがあります

AYA世代(15~39歳)のがん患者さんは、
がん治療によってライフイベントや
将来プランの変更が不安・悩みとなります



AYA世代がん患者さんの心理支援は
緩和ケアチームに、ご一報を！

最後に今後の展望を教えてください。

「患者さんのちよつとした心の動きや揺れを察知し、柔軟かつスピーディーに対応できるチームに立ち向かっている姿に感動しました。その絆の深さに私も一緒に時に笑い合ったり、もらい泣きをしたり、そんな風に心理支援をしたことが印象に残っています」

ように配慮しながら関わりました。厳しい状況の中でも、患者さんとご家族が支え合ってがんの深さに私も一緒に時に笑い合ったり、もらい泣きをしたり、そんな風に心理支援をしたことが印象に残っています」

ムにしていきたいと考えています。また、他職種と関わる機会も多いため、これまで以上に院内の連携を深め、AYA世代支援チームにコンパクトしやすい環境を整えていきたいです。そうした取り組みが、患者さん一人ひとりの支援につながっていくと信じています」

業種別 INTERVIEW

それぞれの立場から見たAYA世代支援



患者さんのお困りごとを
多方面からフォローする
ソーシャルワーカー

年代によってお悩みもさまざま

入院や通院にかかる費用のことから、休職に関する相談まで、さまざまなお困りごとをサポートするのがソーシャルワーカーの役割です。多様な悩みとどのように向き合ってきたのか、駒山裕耕さんにお話を伺いました。

「医療福祉相談室のソーシャルワーカーとして、入院患者さんの転院相談をはじめ、高額療養費制度や生活保護、介護保険など、主に福祉制度に



駒山 裕耕さん ソーシャルワーカー

2010年4月 社会福祉士 取得
2021年4月 精神保健福祉士 取得
2022年10月 公認心理師 取得

関するご相談に対応しています。AYA世代からのご相談は全体の約1割ほどです。患者さんご本人から直接ご相談をいただくことは少なく、リハビリスタッフや看護師から依頼を受けるケースが多いのが現状です。

がん患者さんの場合、終末期で入院される方も少なくありません。そのため、当院で治療を行い回復を目指して転院先を探す方もいれば、穏やかな最期を迎えるための準備を進める方もいます。患者さん一人ひとりの状況に応じて、相談内容も大きく変わってきます」

「AYA世代を支援する中で、心がけていることはなんですか？」

「AYA世代といっても、思春期の方から大学生、新社会人、結婚・妊娠・出産を経て子育てをしている方まで、ライフステージはさまざまです。」

患者さんやご家族が何に一番困っているのかに耳を傾け、その状況に応じた福祉制度や治療と仕事の両立支援、入院費用など、今最も必要な情報をお伝えすることを大切にしています」

病気になるって初めて、必要なものが浮き彫りになる

「印象に残っているエピソードを教えてください。」

「30代の独身のがん患者さんが、一人で闘病されていたケースがありました。退院後も元気に外来でお会いできたときは、本当にうれしかったです。AYA世代の方の中には、家族とも疎遠になり、身近に頼れる人がいないケースもあります。自分だけでなんとかしようと思わず、ソーシャルワーカーに相談できることを知ってほしいです。病気になるって初めて、自分に何が必要か

が見えてくることも多いものです。悩みを解決するために、ソーシャルワーカーという職種がありますので、ぜひ気軽にご相談ください」

——どんなご相談があるのでしょうか？

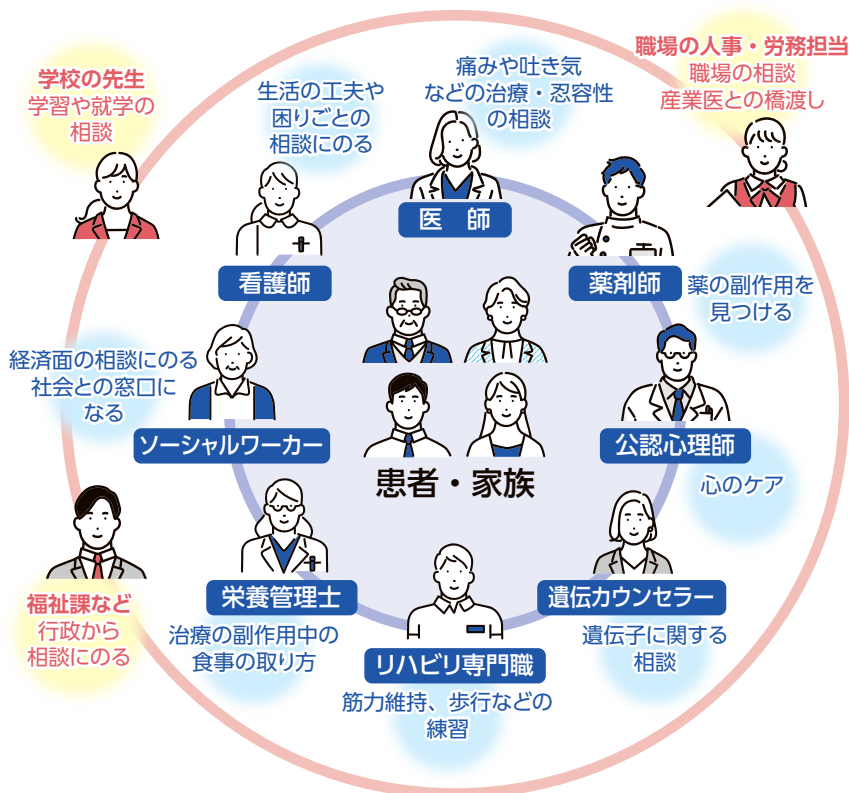
「AYA世代で多いのは、お金と仕事に関する相談です。会社の就労規則に休職制度がどのように記載されているかを一緒に確認しながら、今後の働き方についてアドバイスをすることもあります。また、身寄りのない患者さんから依頼を受けて、ご自宅に必要な物を取りに行くこともあります」

——そこまで対応していただけるのは心強いですね。病気になる前に必要な制度を知ることができるのでしょうか？

「東京都では、AYA世代のがん患者さんやご家族に向けた無料の案内冊子を作成しています。ホームページからダウンロードが可能で、当院の医療福祉相談室やがん相談室でも配布していますので、ぜひお気軽にお立ちください」

——最後に、読者の皆さんへメッセージをお願いします。

支援する人々とその役割



「AYA世代の支援は、まだまだ相談件数が少ないのが現状ですが、実際には困っている患者さんやご家族は多いと感じています。『これくらいのこと』と一人で抱え込まず、入院費用のことや

日常生活の悩み、恋愛や学校のことまで、医師や看護師、リハビリスタッフなど、話しやすい人に声をかけてください。AYA世代支援チームが一丸となって、皆さんをサポートしていきます」

誰もが笑顔になれる美容院を目指して

帝京大学医学部附属病院には、誰もが利用できる美容室「ヘアサロンこもれび」が併設されています。10年以上にわたり、お一人で接客を担当されている上山さんにお話を伺いました。

「カットやカラーなどの一般的な美容室メニューに加え、病室での出張カットや医療用ウィッグの試着にも対応しています。闘病中で気分が晴れないときでも、ここに来てクロスをつけていただければ、病院にいることを忘れ、美容室に来たような気分を味わっていただけます。皆さんに笑顔で帰っていただけるよう、心を込めて接客しています」

——どのような方が利用されているのでしょうか。

「幅広い年代の方にご利用いただいています。点滴を受けながらの方や車椅子をご利用の方、仰向けの姿勢が難しい方、病院のベッドで過ごされている方、医療用ウィッグを使用中の方、これから使用を検討されている方など、さまざまです。医療用ウィッグは試着も可能で、初めての方にも安心して使っていただけるよう、お手入れ方法や装着方法を丁寧にお伝えしています。また、オーダー商品にも対応しており、いつもの髪型と同じように、カラー

やカット、パーマをすることも可能です」

——印象に残っている出来事はありますか？

「忘れられないエピソードばかりです。AYA世代の方の中には、泣きながら丸坊主にされる方もいらっしゃいました。大切に、そして長く伸ばしてきた髪を失うことは、ご本人にとって本当に大きな出来事だったと思います。」

ご家族にも医療関係者にも言えない悩みを打ち明けてくださる方や、残念ながら亡くなられた方のご家族から、感謝のお手紙をいただくこともあります。私は、直接お客様の病気を治すことはできませんが、抱えている不安を一つでも取り除くお手伝いをしていきたいと考えています」

——最後に、読者の皆さんにメッセージをお願いします。

「いつもと違う美容室に行くのは、とても緊張することだと思います。勇気を出してお店に足を運んでくださったお客様には、感謝の気持ちでいっぱいですし、ご縁をいただきた以上は、責任を持って対応させていただきます。来てくださった方々が、明るい気持ちで笑顔になって帰っていただけることが、何より大

MY FAVORITE



映画やドラマを鑑賞すること。特に韓国ドラマが好きで、今はバク・ミニョンさんを推しています！



上山さん ヘアサロンこもれび

切だと思っています。今後、ほかの病院にも、患者さんに寄り添える美容院が増えていくことを願っています」

帝京大学医学部附属病院ホームページ
04 病院のご案内

▼
ウェブマガジン T-ch「ティーチ」
より閲覧できます。

または右記の二次元バーコード
をスマホで読み取っていただくと、
直接閲覧できます。
ぜひご覧ください。



ホームページ上で気軽に読んでいただけるようなウェブマガジン「T-ch」です。
「T-ch」は、各専門分野の疾病や治療方法などを紹介するウェブマガジンです。

- T-ch Teikyo 帝京大学医学部附属病院の頭文字
- ch Channel 「チャンネル」
- Teikyo Web Channel を略して「T-ch」としました

また、「ティーチ」には「teach」教える」と意味も込められています。当院の様々な取り組みを発信するページです。

ウェブマガジン T-ch「ティーチ」

ウェブマガジン T-ch「ティーチ」コンテンツ一覧

No.1	CKDってなに？
No.2	肝臓・膵臓とアルコールについて - 耳の痛くないお話 -
No.3	妊娠と薬の話
No.4	突然線が曲がって見えたら？
No.5	わかってきたアトピー性皮膚炎
No.6	においがしない？ 好酸球性副鼻腔炎の話
No.7	神経のはたらきは、数字で表せるのでしょうか？
No.8	うつ病の最新治療 rTMS - 磁気で脳をやさしく活性化 -
No.9	新しい狭心症とは

5Fフロアマップ



2026年3月2日より、
外来化学療法室が2階から
5階へ移転いたしました。
今後は、外来用エレベータ
で5階へお越しくください。

外来化学療法室の
紹介はこちら



- ⑩総合周産期母子医療センターMFICU (母体胎児集中管理治療室) / NICU・GCU (新生児集中治療室・新生児回復室)
- ⑪帝京がんセンター 外来化学療法室

P.2 クロスワードの答え

カ	フ	エ	ラ	テ
ナ	ゾ		ー	
	ク	ル	メ	シ
ザ		ア	ン	ヨ
コ	リ	ー		ク

コ_A ア_B ラ_C



外来化学療法室が移転しました

理念

患者そして家族と共にあゆむ医療

基本方針

安心安全な高度の医療
患者中心の医療
地域への貢献
医療人の育成
医学研究の推進



TEIKYO

帝京大学医学部附属病院

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1

TEL.03-3964-1211(代表)

<https://www.teikyo-hospital.jp/>

院内誌についてのお問い合わせ先

帝京大学医学部附属病院 広報委員会